

授業の視点	文章の構成に注目して説明文を読む基礎を養う - 複数のテキストを読み、目的に応じて理解・表現する -
-------	---

1 単元 構成をとらえよう(「ハチドリの不思議」)

2 目標

- (1) 説明文の文章構成が分かる。
- (2) 複数のテキストを使って、テキストの解釈を深めたり、書き表し方について評価することができる。

3 単元について

説明的な文章については、1学期に単元「情報を読み取るう」(「脳のはたらきを目で見よう」)を学習した。「脳のはたらきを目で見よう」は、脳科学者・川島隆太氏の「脳の活性化」を説明した文章である。初めての中間テストが終わった直後であり、テキストを読む目的を「脳の働きについて理解し、自分の学習に役立てる」としたところ、生徒はとてもし欲的に取り組んだ。ここで学習したことを読解のプロセスに沿って整理すると、以下のようになる。

図表などの非連続テキストを助けとして、内容をとらえる。(情報の取り出し)

目的意識をもって文章を読み、自分にとって価値のある情報をとらえる。(テキストの解釈)

解釈の妥当性を話し合い、自分の考えを深める。(テキストの熟考・評価)

国語科の「目指す生徒像」に照らして実態をとらえる。

テキストを目的に応じて理解・評価しながら読むことができる生徒

テスト直後であったので、文章を読む目的「脳のはたらきについて理解し、自分の学習に役立てる」は、有効に機能した。

本文を詳しく読む前に、「学習の悩み」をノートに書かせた。類型化すると、「漢字・英単語・地名・生物の名前が覚えられない」「図形の問題が苦手」「感想文が書けない」などの悩みが挙げられた。

「脳のはたらきを目で見よう」は、音読が脳を活性化させる様子を脳の血流の画像を使って見せ、「記憶」のテストで検証している。

学習の終末に悩み解決の方法を文章化させた。のような悩みをもつ生徒は、「音読しながら覚える」と文章から悩み解決の手立てを発見できた。また、のような生徒は、「この文章は自分の悩み解消には役立たない」と評価したり、「直接は役立たないかもしれないが、脳の準備運動として音読を取り入れる」と解釈を加えたりした。

この授業では、学級の生徒全員が、それぞれに何らかの学習方法を見つけ出し、文章化することができた。

自分の考えをもち、進んで表現することができる生徒

限られた時間の中で自分の考えをまとめることも、言語の能力の一つである。授業中に自分の考えを書くときは、「200字・15分・意見と根拠・ の言葉を使う」などの条件をつけている。繰り返し書くことによって、だいが書けるようになってきた。その中で、努力を要する生徒が*人、ほとんど書かない生徒が*人いる。

他者との交流を通して自分の考えを深めることができる生徒

書くことに比べ、話すこと・話し合うことを苦手としている。

グループでの話し合いは、なかなかパブリック・スピーキングが定着しない。日常語の話し合いは、脇道にそれやすい。司会者を決めて話し合うことを指導している。

また、全体での話し合いでは、自分の考えを話すことはかなり向上してきたが、まだ互いに話し合うまでには至っていない。そこで、この学習では指導者が予め文章をチェックして類型化し、話し合いの構想を立てて話し合いをリードした。

「話し合い後の考え」を書かせたところ、級友の発表を的確にとらえて変容している様子が、記述から見て取れた。

この単元「構成をとらえよう」は、3領域の活動、読むこと(説明文)、話すこと・聞くこと(スピーチ)、書くこと(意見文)を通して、表現様式は異なっても、ある事象や自分の考えを効果的に伝える方法として「構成」に注目させるというものである。

読むことの教材「ハチドリの不思議」は、「問題提示と答え」という説明文の基本的な構成をもっている。丁寧な説明で論理の飛躍がない。しかも短文であるため、1年生の教材として適している。しかし、理科学的な用語や経済用語の比喩的転用などの理解には、辞書やその他の資料が必要となってくるだろう。

単元全体の導入に当たって、自作教材「20のとびら」を使って、説明の構成要素を学ぶこととする。これは、「話すこと・聞くこと」のゲーム形式の学習である。出題者は、隠している何かにつき、黒板に示した20項目のヒントを回答者の求めに応じて話していく。回答者は、説明を聞き、断片的な情報を総合してその「何か」を言い当てるといったものである。出題者は、回答者が知りたいと思っている事柄を項目として示して、「は何ですか」という問いに対して答えていく構成になっている。

項目を疑問形にし、並べて文章化したら説明文になる。そのことを押さえ、「ハチドリ不思議」の構成をとらえる際に、「問題提示と答え」が手がかりとなることに気付かせたい。

内容をとらえる学習では、用語に抵抗があると考えられる。そこで、国語辞典を使って語句の意味を確かめながら読むという、説明文読解の基本を徹底する。辞書の活用は、「全国学力調査」で2年連続振るわなかった分野であり、このような学習場面で意識的に指導する必要がある。

また、「ハチドリが活着ているのはなぜか」を調べる際には、教科書「理科2分野・上」(大日本図書)の一部分(B体温の保ち方)を活用する。これは、「恒温動物」、「変温動物」について述べた文章であり、両方の動物の体温のグラフが掲載されている。この文章を本文の助けとして読ませ、「ハチドリの体温のグラフはどのようになるだろう」と問う。非連続テキストの作成になるが、この過程でハチドリが活着ている理由は全て読み取れるはずである。作成後、その理由を明確に言語化させ、交流させる。

さらに、図鑑類「鳥の生態図鑑」(学研)、「ネーチャーライブラリー・鳥類」(偕成社)のハチドリについての記述を読み、文章の構成を比較させ、説明文の構成を確認する機会を設ける。また、他の題材を扱った説明文についても調べ、一般化していく。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
進んで段落相互の関係を確かめたり、複数のテキストを読んだりして説明文の構成をとらえ、理解に生かそうとしている。	文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解している。文章の中心的部分と付加的な部分、事実と筆者の考えとを読み分けている。	事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。

5 指導と評価の計画(「ハチドリ不思議」6時間扱い)

次	時	学習内容・活動	学習活動における具体的評価規準(評価方法)		
			国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	1	「20のとびら」を通して、説明の要素を知る。学習計画を立てる。	ゲームを楽しみながら、説明文の構成に関心をもっている。	説明文の構成をとらえている。	
2	1	文章全体の内容を大まかにとらえ、語句の意味を確かめる。	文章の内容に興味をもち、自分なりに内容をとらえようとしている。	文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解している。「問題」と「答え」の照応を読み分け、文章の構成をとらえている。	事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めている。
	2・3	「問題提示と答え」を手がかりに段落相互の関係を整理する。	文章を構成からとらえることに興味をもって取り組もうとしている。		
	5	テキストを比較して読み、「ハチドリが活着ている理由」をまとめて交流する。	文章の内容をグラフ化することに意欲的に取り組み、交流することでテキストの解釈を深めようとしている。	「ハチドリが活着ているのはなぜか」について読み取ったことをグラフに表現している。	
	6	他の説明文を読み、構成をとらえる。学習のまとめをする。	説明文の構成について確かめ、今後の理解に生かそうとしている。	様々な説明文の構成に注意して読んでいる。	

6 本時の指導

(1) 目標

ハチドリの体温のグラフを書くことを通して、文章の中心的な問い「ハチドリが活着ているのはなぜか」の答えに迫ることができる。また、そのようなグラフになった理由を説明し合っ

(2) 準備・資料

学習カード(学習計画・自己評価) ワークシート 教科書 ノート
理科教科書プリント「理科2分野・上」

(3) 展開 (4 時間目)

学習内容・活動	要旨をグラフに表現する手立て	個に応じた支援・評価
<p>1 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ハチドリが生きているのはなぜか」の答えを読み取る。</p> </div> <p>2 文章の中心的な問いに対する答えを読み取る。</p> <p>(1) 「ハチドリの不思議」と理科の資料を読む。 用語「冷血動物」「温血動物」の意味をとらえる。</p> <p>グラフ「外界の温度と体温」の見方について話し合う。</p> <p>ハチドリの体温のグラフを書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ハチドリ (体温) のグラフはどのようになるだろう。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;"> <p>予想されるグラフ</p>  </div> <p>(2) グループになり、どのようなグラフを書いたのか紹介し合う。</p> <p>3 グラフを書くことによって分かったこと (要点) をワークシートにまとめる。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 学習カードに学習進度・自己評価を記入する。</p> <p>(2) 次時学習の見通しをもつ。</p>	<p>要点をまとめることが難しいという生徒に、複数の資料を併せて読むことが理解を深める手段としてあることを知らせる。</p> <p>辞書を使って調べても十分に理解しきれなかった「冷血動物」「温血動物」の意味を教科書資料でとらえる (テキストの評価) ことを知らせ、理解の助けとする。</p> <p>グラフの縦軸・横軸、それぞれの動物のグラフ (概ね斜線・2本の直線が表すもの) を文章中の言葉を使って説明させる。(テキストの解釈)</p> <p>グラフが示していることを言葉で表現することを繰り返して行う。言葉の置き換え (ネコ = 恒温動物 = 温血動物) などを十分に行って理解を深めさせてから、グラフの作成に取りかかるよう指示する。</p> <p>「ハチドリの不思議」本文段落と資料を突き合わせるようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グラフの始点はどこか。(気温は何度まで下がるか。) ・ 斜線はどのような角度か。(気温と体温の関係はどうか。) ・ どこから横向きの直線になるか。(ハチドリの昼間の体温は何度くらいか。) <p>グループごとに司会の生徒を立て、話し合いを進める。グループの4人が、それぞれワークシートを提示して発表できるようにする。</p> <p>グラフの形態とそうなる理由の2点について発表することとする。</p> <p>「冬眠・気温・夜・朝・冷血動物・温血動物」などの文中の言葉「キーワード」を使って発表し、要点のまとめへつなげるよう助言する。</p> <p>「10分・キーワード使用・ワークシートの欄内」の条件でまとめる。</p> <p>問い「ハチドリが生きているのはなぜか」に照応するように答えをまとめる。付加的な部分についても記述させる。</p> <p>要旨を読み取るには、ただ文章に向かうだけでなく色々な方法があることに興味をもたせる。</p>	<p>前時の学習を想起させ、問いに対する答え (それぞれの段落の要点) のまとめ方に触れる。本時は、個別グループで自力解決することを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読む能力</p> <p>ハチドリが生きている訳を体温のグラフを書くことを通して考えることができる。(観察・ワークシート)</p> </div> <p>問いかけてもグラフの意味することを説明できない場合には、グループで相談し合う時間を取る。</p> <p>グラフがなかなか書き出せない生徒には、グラフのポイントになる部分を一つずつ一緒に考えていく。</p> <p>グラフが早く終わった生徒は、グラフが表すことを書き込みするよう指示する。</p> <p>また、自由な発想で書いてみるよう促す。(横軸を時間にして、時間の経過と体温の関係を表したグラフも考えられる。)</p> <p>グラフが十分に書けなかった生徒には、グループの生徒の考えを聞いて参考にしよう助言する。</p> <p>グラフを完成させた生徒には、聞き手に分かるように丁寧に説明するよう促す。自分の考えをまとめることにもなることを伝える。</p> <p>なかなか書き出せない生徒には、1回目のまとめであり、友達の見解を参考にさらに深めていくことを知らせ、気軽に書くことを促す。</p> <p>さらに、いくつかのキーワードを一緒に見つけ出していく。</p> <p>あえて全体の話し合いは行わず、次時に「答え」の部分の妥当性を吟味することを伝える。</p>